


終わりに



京論壇2008にご協力頂いた方々

ご協力頂いた方々を、一部ご紹介致します。

京論壇一同、改めて厚く御礼申し上げます。

(所属先は当時)

高原明生先生 (京論壇アドバイザー)

東京大学大学院

法学政治学研究科教授

浅島誠先生

東京大学理事・副学長

高橋宏志先生

東京大学理事・副学長

古田元夫先生

東京大学大学院

総合文化研究科教授

牧野篤先生

東京大学大学院

教育学研究科教授

川島真先生

東京大学大学院

総合文化研究科准教授

寺本振透先生

東京大学大学院

法学政治学研究科教授

生源寺眞一先生

東京大学大学院

農学生命科学研究科長

松田康博先生

東京大学東洋文化研究所教授

田中明彦先生
各務茂先生

東京大学国際連携本部長
東京大学産学連携本部
事業化推進部長教授

宮内雄史様

東京大学北京事務所長

関谷孝様

東京大学副統括長

大川栄治様

広報グループ長
東京大学大学院

鈴木美穂様

法学政治学研究科会計係

梁井光様

東京大学渉外本部

木村嘉陽様

東京大学総務・法務系

西原春夫先生

東京大学教養学部共通技術室

興直孝先生

早稲田大学名誉教授

趙宏偉先生

静岡大学学長
日中産学官交流機構理事

谷内正太郎様

法政大学
キャリアデザイン学部教授

林和孝様

外務省顧問
東京大学大学院

道尚史様

総合文化研究科客員教授
外務省アジア太平洋局

道尚史様

中国・モンゴル課課長補佐
在中国日本国大使館公使

終わりに

山本恭司様	在中国日本国大使館参事官	太田篤様	留学生支援企業協力推進協会 専務理事・事務局長
島美奈子様	在中国日本国大使館 三等書記官	浦野光人様	株式会社ニチレイフーズ 代表取締役会長
西本志乃様	在中国日本国大使館 専門調査員	加藤直二様	株式会社ニチレイフーズ 執行役員 企画本部長
中井徳太郎様	人事院給与局給与第二課長	片山博視様	株式会社ニチレイフーズ 品質保証部長
塩川白良様	農林水産省大臣官房参事官	川崎順司様	株式会社ニチレイフーズ 品質保証部品質管理グループ 株式会社ニチレイフーズ 管理部 企画管理グループ
伊佐寛様	農林水産省消費・安全局 消費者情報官補佐	大出麻紀様	メリルリンチ日本証券 代表取締役社長
鈴木明子様	農林水産省消費・安全局 消費者情報官補佐	小林いずみ様	マネックスグループ株式会社 代表取締役長 CEO
渡邊幸治様	日本国際交流センター シニアフェロー	松本大様	マネックスグループ株式会社 代表取締役長 CEO
山崎貴哉様	国際交流基金 日中交流センター	中島努様	マネックスグループ株式会社 取締役
岡山純子様	科学技術振興機構 研究開発戦略センター	勝屋敏彦様	マネックスグループ株式会社 執行役員企画室長
木村憲様	日中産学官交流機構常任幹事	安延申様	フューチャーアーキテクト 代表取締役社長 COO
柳瀬豊昭様	日中産学官交流機構事務局長		
秦陽一様	ものづくり生命文明機構 事務局長		

太田浩嗣様	株式会社電通 PR	高氏敦様	NHK ラジオセンター
鄭燕様	株式会社電通 PR	伊丹新様	ディレクター
若林龍成様	株式会社ビービット副社長	周莉様	NHK ラジオセンター
小泉武嗣様	三菱商事株式会社	付穎様	チーフプロデューサー
岡本浩治様	三菱商事中国室室長	清水美和様	CRI 中国国際放送局日本語部
徐向東様	三菱商事株式会社	脇阪紀行様	番組チーフディレクター
柳田洋 様	欧州 CIS チーム	古畑康雄様	CRI 中国国際放送局
大沼武彦様	中国市場戦略研究所	小林祥子様	東京支局特派員
澤真理子様	北京華通廣運物流有限公司	涌井健索様	中日新聞東京本社論説委員
山本謙治様	株式会社ローソン	Lee Reeve 様	朝日新聞東京本社論説委員室
岡部史郎様	経営戦略ステーション	松本和久様	朝日新聞西埼玉支局支局長
上島由紀子様	リテラジヤパン	開沼博様	共同通信社
唐津周平様	代表取締役		国際局中国語ニュース室
村島章惠様	株式会社グッドテーブルズ		株式会社 TBS テレビ
	代表取締役社長		報道局デジタル編集部
	都市インベストバンク		株式会社文藝春秋社
	株式会社		週刊文春編集部
	インタナショナルシップ総合研究所		明石書店編集部
	株式会社		Human Relations Specialist
	インタナショナルシップ総合研究所		& Creative Consultant
	NHK ラジオセンター		大学教育研究所
	チーフディレクター		東大ナビ

終わりに

東京国際大学下羽ゼミ
フリーバード20008関東支部
日中学生会議2008実行委員会

協賛企業・団体・個人様（日本）

財団法人 渋沢栄一記念財団
株式会社ニチレイフーズ
株式会社ニチレイ
マネックスグループ株式会社
メリルリンチ日本証券株式会社
ゼネラルエンジニアリング株式会社
フューチャーアーキテクト株式会社
富士ゼロックス株式会社
イーピーエス株式会社
全日本空輸株式会社
株式会社ビービット
都市総研インベストバンク株式会社
株式会社ローソン
株式会社ゼンショー
株式会社ケイ・ワイ・トレード
日中産学官交流機構

渋澤健様
大竹美喜様
北城恪太郎様
濱口敏行様





 **BHCC**
Brighton Human Capital Consulting



JAPAN FOUNDATION 

日本国際交流基金会

ALPS

【新聞】

朝日新聞全国版社説（08年8月15日）

朝日新聞埼玉版（08年2月20日）

東京大学新聞（08年4月15日）

サーチナ（08年7月28日）

教育新聞（08年7月31日）

沖縄タイムス（08年8月16日）

共同通信 共同網（08年10月19日）

【ラジオ】

NHKラジオ第一「日中対話2008 日中若

者対話」（08年9月23日）

NHKラジオ第一「成人の日特集 日中韓

若い力で環境交流」（09年1月12日）

【雑誌など】

東方（08年9月号）

外交フォーラム（08年11月号）

日中教育交流研究会議会報（08年11月号）

SUNDAI ASCENT（08年11月号）

日中産学官会報（08年12月号）

2009年に向けて

京論壇は、2005年に中国で起こった反日デモをうけて、将来の日中関係に危機感を持った若者が作った学生団体です。今日、中国における経済発展や世界情勢の変化により日中関係は以前ほど険悪なものではなくなりました。しかし、未だに感情やお互いに関する情報の違いに起因する問題も数多く存在しています。今後とも、団体の意義を真摯に見つめながらお互いを理解し合う努力を絶やさずに活動して参ります。京論壇2009は以下の3つをモットーに致します。

① アウトプットに対する思い

京論壇は創設以来、課題を抱えながらも、議論を仲間内だけで終わらせるのではなく、広く社会に発信するよう努めて参りました。その思いをしっかりと受け継ぎ、例年以上に真剣な議論及びその議論を通して得られた経験を社会に積極的に発信していける団体を目指します。

② 学生団体としての運営モデル

数ある学生団体の中でも、社会から注目される団体として、しっかりと存続していくために運営方

法をもう一度見詰め直します。そして、一人一人が誇りを持って活動できるような団体を目指します。

③ 交流の拡大と深化

毎年「社会発信」というテーマを掲げているものの、自分たちだけで社会発信するには限界があることも事実です。そこで、これまで以上に他の学生団体や社会人の方々を巻き込み、共同で多くの媒体を通じて社会発信をしていきます。また、北京大学の仲間ともさらに密にコミュニケーションを取り、単に議論をするだけではなく、心からお互いを理解できるような関係の構築を目指します。

京論壇は『たかが学生、されど学生』の学生団体です。真剣に様々な問題に立ち向かい、成果を常に社会発信を意識していく所存です。ご声援、よろしくお願い致します。

京論壇2009 東京大学実行委員会

代表 原健太郎

編集後記

「大学院生です」と言うと、大抵「修士論文が大変でしょう」と言われます。その度に、「いえ、うちの大学院は専門職大学院でして、修士論文がないのです」と答えるものの、何か言い訳のようで心苦しい思いをしてきました。しかし、今であれば？ 『学生の「日中」発見』をみんなに助けられながら編集しました、と胸を張って答えられそうです。そう言ったら大袈裟でしょうか。しかし、その位、本書は多くの人の時間と労力が詰まったものとなりました。

季節を3つまたいだ編集の日々。実は最初に頓挫の危機がありました。各分科会から編集メンバーが集まり、他の分科会参加者から「ツッコミ」を貰いながら議論の内容を体系化するはずが、「ポロ」が目立ち始めたのです。曖昧な前提の上に組み立ててしまった議論、もっと議論すべきだった論点——編集メンバーは頭を抱えました。「議論が不完全だった以上、その内容は出版物として到底耐えられない」という出版中止の意見も出ました。しかし、私たちの成果をブックレットという形

で仕上げることとなったのは、京論壇の原点である「学生らしい議論」の内容を多くの人に伝えることには意義があると意を決したためです。学生ならではの本音の議論を経て得られた、私たちの「気づき」。それを社会発信することは、日中の相互理解、ひいては日中の友好に貢献しうる——この思いが出版中止の危機を乗り越えさせました。

本書の作成を支援してくれた全ての人に感謝を捧げたいです。特に、執筆担当者の皆さまには感謝し尽くせません。鬼のごとく、何度も原稿の書き直しをお願いし、鞭を打つがごとく、原稿の仕上げを急かせてしまいました。皆さまの協力がなければ、本書は完成に至りませんでした。

本書が、読者一人一人に、小さくとも何かの「発見」を与えることが出来たのなら、これ以上の喜びはありません。

2009年3月

『学生の「日中」再発見』編集長 忍田裕幸

京論壇2008メンバー

歴史教育分科会

<東京大学>

- 萬健治郎 (参加者、総合文化研究科) ○
池田真歩 (参加者、文科3類)
信太博之 (参加者、文科1類)
羅俊明 (スタッフ、農学生命科学研究科) ○
王 田 (スタッフ、総合文化研究科)
堀越啓介 (スタッフ、教養学部) ○

<北京大学>

- 华 锐 (参加者、歴史学系)
梁 伟浩 (参加者、国際関係学院)
张 欣悦 (参加者、中国語文学系)
钱 一帆 (スタッフ、外国語学院)
翁 荔 (スタッフ、情報管理系)

軍事認識分科会

<東京大学>

- 原健太郎 (参加者、工学系研究科) ○
竹内友理 (参加者、文科1類)
中村仁 (参加者、文科1類)
佐々木健介 (スタッフ、農学生命科学研究科)
長山大介 (スタッフ、工学系研究科) ○
李 天舒 (スタッフ、経済学研究科)

<北京大学>

- 黄 宇藍 (参加者、国際関係学院)
彭凌雨哲 (参加者、国際関係学院)
许 春彬 (参加者、法学院)
吴 晏 (スタッフ、法学院)
张 一 (スタッフ、法学院)

食料分科会

<東京大学>

- 忍田裕幸 (参加者、公共政策大学院) ◎
大石晃史 (参加者、工学部)
広沢歩 (参加者、文科2類)
杉本奈穂 (スタッフ、人文社会系研究科) ○
荒川あゆみ (スタッフ、農学生命科学研究科)
山田康生 (スタッフ、農学生命科学研究科)

<北京大学>

- 张 成 (参加者、新聞伝播学院)
赵 伯君 (参加者、薬学院)
张 璐 (参加者、光華管理学院)
周 权 (スタッフ、国際関係学院)
屈 昕晨 (スタッフ、新聞伝播学院)

ビジネス分科会

<東京大学>

玉井芳野 (参加者、教養学部)
臧 涵 (参加者、工学部)
大福谷修平 (参加者、経済学部)
三上由依 (スタッフ、公共政策大学院) ○
山内一馬 (スタッフ、総合文化研究科) ○
解 明明 (スタッフ、法学部)

<北京大学>

董 晓菡 (参加者、政府管理学院)
买 慧 (参加者、经济学院)
朱 峰 (参加者、新聞伝播学院)
李 子木 (スタッフ、外国語学院)
于 一 (スタッフ、光華管理学院)

全体スタッフ

<東京大学>

山形宏之 (総合文化研究科) 代表 ○
中谷絵里 (工学部) 副代表 ○
王 暹 (総合文化研究科)
江 暉 (情報学環・学際情報学府)
國分朝菜 (工学部)
大久保智夫 (経済学部)
鈴木陽 (教養学部) ○
栞 嘉怡 (文科2類)
郭沙千子 (教養学部)
山口淳也 (法学部)

<北京大学>

李 抒夏 (外国語学院) 代表
张 潇 (光華管理学院) 副代表
廉 和 (物理学院) 副代表
周 倩如 (中国語文学系)

- (注) 参加者 = 議論を担当
スタッフ = 運営を担当
◎ = 編集長
○ = 原稿執筆者

【编者紹介】

きょうろんだん 京論壇2008 東京大学実行委員会

東京大学と北京大学の学生フォーラム「京論壇」を開催するために、東大生が組織したフォーラム委員会の2008年度版。約15名。北京大学には京論壇北京大学実行委員会がある。

京論壇とは、東大生と北京大生が1週間ずつ日本と中国を訪問し、日中間に山積する課題について英語で議論をするフォーラム。2008年度は「歴史教育」「軍事認識」「食料」「ビジネス」がトピックとして選ばれ、4つの分科会が組織された。年に1回の開催を目指し、スタッフが1年かけて準備を行う。

京論壇は社会発信を重視しており、2008年には明石書店より書籍「東京大生×北京大生 京論壇 次世代が語る日中の本音」を出版。

<http://www.jingforum.org/>

学生の「日中」再発見—京論壇 2008 の軌跡—

2009年3月 初版発行

编者・発行人 京論壇 2008 東京大学実行委員会